

令和4年度 地理探究シラバス

沖縄県立八重山高等学校

教科(地理探究) ()内に選択教科等の場合記入する	学科名 普通科	学 年 3 年	単 位 数 3 単 位	履 修 期 間 通年・2 カ 年
科 目 名		地 理 探 究		

目 標	目標(到達目標も含め)を記入 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
概 要	世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的な規則性、傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察させるとともに、現代世界の諸課題について地球的視野から理解させる。				
授 業 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容 概 要		
		1 4	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地形、気候、植生などに関する諸事象取り上げ、それらの分布や人間生活とのかかわりなどについて考察させるとともに、現代世界の環境問題を大観させる。 地球儀の活用、様々な時代や種類の世界地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、各時代の人々の世界観をとらえさせるとともに、地図の有用性に気付かせ、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身に付けさせる。 世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通、消費などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の資源・エネルギー、食糧問題を大観させる。 世界の人口、都市・村落などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。 世界の生活文化、民族・宗教に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や民族と国家の関係などについて考察させるとともに、現代世界の民族・領土問題を大観させる。 直接的に調査できる地域を地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域駅特色をとらえる地理的技能を身に付けさせる。 現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身に付けさせる。 現代世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の概念、地域区分の意義を理解させるとともに、その有用性に気づかせる。 	
		5	1章 自然環境 ～ 中間テスト ～		
		6	第Ⅰ部 様々な地図と地理的技能 1章 地理情報と地図		
		7	1節 現代世界の地図 2節 地図の種類とその利用		
		2	第Ⅱ部 2章 資源と産業 ～ 期末テスト ～		
		9	3章 人口、村落・都市		
		10	～ 中間テスト ～		
		11	4章 生活文化、民族・宗教 ～ 期末テスト ～		
		3	12		第Ⅰ部 2章 地図の活用と地域調査
		1	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分		

	月	単 元 名	学習内容概要
	2	2章 現代世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の諸地域を取り上げ、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や地球的課題について理解させるとともに、地誌的に考察する方法を身につけさせる。
	3	3章 現代世界と日本 ～ 学年末テスト ～	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界における日本の国土の特色について多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土のあり方などについて展望させる。
評価の観点	<p>「興味・関心・態度」 地理的事象と人間生活の関わりに関心を持ち、意欲的に授業に参加している。課題・提出物等への取り組み、提出状況等で評価。</p> <p>「思考・判断」 地理的事象から課題を設定し、系統地理的に捉える視点や方法を考察している。</p> <p>「技能・表現」 資料や情報を系統地理的に追求し、結果をまとめたり発表したりしている。作業プリントへの取り組み、正確な読み取りや表現がなされているかを評価。</p> <p>「知識・理解」 系統地理的に捉える視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。定期テストや小テストで評価。</p>		
教材	<p>教科書：「新詳地理B（初訂版）」帝国書院 地図帳：「新詳高等地図（初訂版）」帝国書院 副教材：「最新地図図表GEO（新版二訂）」第一学習社</p>		
履修上の注意	<p>※1. A4のファイルを各自で用意する（授業プリントはB4サイズ）。 ※2. テスト点約70%、課題・提出物・授業態度等：約30% ※3. 学期に1度はファイルを提出。小テスト2～3回。 その他の課題や作業も提出点に加える。</p>		

＜シラバスの記入要領＞

シラバスは教科担当者が変わった場合、記載事項に変更があれば差し替えるものとする。
平成24年度入学生徒から、新学習指導要領に移行するのでそれに対応して作製する。
既に作成されているシラバスは、そのまま活かすものとする。
平成24年度新教育課程のシラバスは、下記に示す雛型の形式に統一していく。

①教科（科目の種類）

最初に「国語」などの教科名を記入する。
選択教科の場合は、「芸術」（課題研究美術）と記入する。

②学科名

普通科を記入（済）。

③履修期間

通年、2カ年、のいずれかを○で囲む。

④科目名

「国語総合」などと教育課程表に記されている科目名を記入する。
※学校設定科目の場合は、（学校設定科目）と括弧表記する。

⑤目標

学習指導要領で示されている科目目標をベースにして、実際の授業到達目標も含めて記述する。

⑥概要

科目の内容構成及び取扱い骨子を要約して示す。

⑦授業計画

教科書の章・節毎に表記し、各期中間・期末テストまでの計画を明記する。
各節の主内容を簡潔に明記できればなおよい。

※裏面まで拡張してもよい。但しA4画面で全て納めるようにする。

本校ホームページに掲載するので、ページ数を限定する。

◆授業計画の詳細は「年間指導計画」で作成すること。

◆「年間指導計画」では、授業計画を「月単位」「単元」「時数」等を明記すること。

⑧評価の観点

観点別評価の「興味・関心・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」を「出欠席」「授業に取り組む姿勢・態度」「定期試験」「提出物」などを通してそれぞれのどのような配分で評価に活かしていくのかを明記する。

※本校内規第二編「第1章試験」「第3章 3成績評価 第11条（評価）」も基本にする。

⑨教材

使用教科書名（出版社名）、副教材を使用している場合は、書名（出版社名）を明記する。

⑩履修上の注意

授業を受けるときに必要なもの、例えば体育着や体育館シューズなど必要な用具類を明記する。

実習消耗品費用等実費経費が必要な場合には、理由を明記する。

提出物や作品・報告書等や評価に大きく関わることで生徒にぜひ知っておいてもらいたい点などを明記する。